

10月の安全運転のポイント 平成22年10月号

10月に入ると、秋の行楽シーズンが始まり、紅葉観賞などで山間部へのドライブを計画されている方も多いでしょう。山間部は坂道が多く、強風や霧に見舞われることもあります。そこで今回は、坂道走行時や、強風時、霧発生時の安全運転のポイントについてまとめてみました。

坂道の安全運転

長い下り坂ではエンジンプレーキを活用する

長い下り坂でフットブレーキを使いすぎると、ブレーキが効かなくなることがあり大変危険です。低速のギア（AT車では、2かまたは1）にしてエンジンプレーキを活用し、フットブレーキは補助的な使用にとどめましょう。

また、下り坂は加速がつきやすいので、車間距離を長くとりましょう。

上り坂の頂上付近は徐行する

上り坂の頂上付近は見通しが悪く対向車の発見が遅れるので、徐行して進行しましょう。また、上り坂の頂上付近は追越し禁止です。

下りの車が上りの車に道を譲る

坂道ですれ違うときは、上りの車のほうが発進が難しいので、下りの車が一時停止して上りの車に道を譲ります。ただし、片側が崖になっていて、安全な行き違いができない場合には、転落のおそれのある崖側の車が一時停止して道を譲りましょう。



強風時の安全運転

スピードを落としハンドルをしっかり握る

強風時は、ハンドルをとられ車が流されることがあります。しかし、車が流されただけで事故になることは少なく、車が流されたためにパニックになり、あわててハンドルを切り返したり、急ブレーキを踏んだために事故になるケースが大半です。

したがって、強風時は、まずスピードを落とすとともにハンドルをしっかり握り、車が多少流されてもあわてずに、車体をまっすぐに保つようにしましょう。

飛来物にあわてない

強風時は、紙屑などの飛来物が一瞬ドライバーの視界を遮ることがありますが、そのようなときもあわてずに、しっかり周りの状況を見て走行しましょう。





霧発生時の安全運転

早めにフォグランプまたはヘッドライトを点灯する

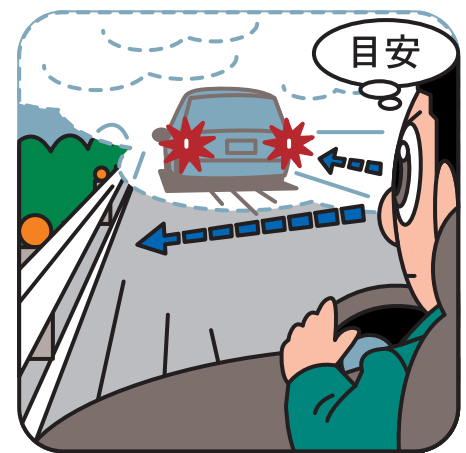
霧が発生したときは、スピードを落とすとともに、フォグランプが装着されている場合はフォグランプを、装着されていない場合はヘッドライトを早めに点灯します。これは自車の視界を確保するためだけでなく、対向車に自車の存在を知らせるためにも重要なことです。

なお、ヘッドライトを上向きにすると、光が乱反射して視界が悪くなりますから、下向きにしましょう。



センターラインや前車の尾灯などを目安にする

霧で前方の視界が悪いときは、センターラインやガードレール、前車の尾灯を目安に走行します。また、危険を防止するために必要な場合は、クラクションを使用して対向車等に自車の接近を知らせるようにします。



濃霧時は安全な場所に車を止めて霧の晴れるのを待つ

濃霧で前方がほとんど見えない状態になったときは、最寄りの退避所など安全な場所（高速道路の場合は、サービスエリアやパーキングエリア）に車を止めて、霧が晴れるのを待つようにします。霧の発生は大半は一時的なもので、しばらく様子を見ていれば晴れてくるケースが多いので、決して無理はしないようにしましょう。

行楽ドライブの留意点

行楽ドライブを安全・快適なものにするためには、余裕のある走行計画を立てることが基本になります。そのためには、渋滞を考慮して時間にゆとりをもたせることや、疲労を防止するために、1～2時間に1回、15分以上の休憩をとることなどがポイントになります。

出発前には必ず車両の点検を行い、燃料、タイヤ（空気圧や摩耗の状態、小石や釘等の異物の有無など）、エンジンオイルや冷却水の量などをチェックしましょう。

家族連れの場合は、6歳未満の子どもにはチャイルドシートを使用しましょう。また、助手席の人はもちろんですが、後部座席の人にもシートベルトを着用させましょう。



「ご相談・お申込先」